

令和4年度 西宮市生活支援コーディネーター設置推進事業 事業報告  
(地域のつどい場推進事業・地域福祉人材養成事業 含む)

『“つながる” “認め合う” “話し合う” あなたと共に創り出す  
「共生のまち」～共創による共生社会の実現へ～』  
生活支援コーディネーター活動報告

西宮市社会福祉法人連絡協議会 交流会



にしのみやつながるフードパントリー



みやっこまなびラボ



西宮市社会福祉協議会 共生のまちづくり推進課

令和5年3月

～ 目次 ～

I. 西宮市生活支援コーディネーター（生活支援C○）の配置経過と特徴	P. 2
II. 生活支援コーディネーターの業務内容と活動件数	P. 3
III. 生活支援コーディネーターの具体的活動	
1. 新たな支え合いづくり	
① 地域のつどい場づくりの推進(地域のつどい場推進事業)	P. 5
・ つどい場交流会	
・ 新規相談など	
② 地域に参加する人を広げる取り組み・地域づくりの視点をもつ専門職の育成 (地域福祉人材養成事業)	P. 7
・ (全市版) 地域福祉人材養成事業	
・ (地域版) 地域福祉人材養成事業	
・ (専門職向け) 地域福祉人材養成事業	
③ 大型お片づけサポートプロジェクト・生活課題に関する個別相談	P. 10
④ にしのみやつながるフードパントリー	P. 12
2. 連携・協働に向けた取り組み	
① 共生型地域交流拠点関連	P. 12
② 協力事業者による高齢者見守り事業(西宮市との協働事業)	P. 14
③ 西宮市社会福祉法人連絡協議会「ほっとかへんネット西宮」運営支援	P. 14
3. その他	
① 広報	P. 16
② 実践発表・コーディネート	P. 16
③ 会議・研修など	P. 16
IV. 今後について	P. 16

## I. 西宮市生活支援コーディネーターの配置経過と特徴

- ・国の介護保険改正（H27年4月）に伴い、地域における生活支援サービスの充実と高齢者の社会参加を目指し、ボランティア等の生活支援の担い手の養成・発掘など地域資源の開発や、地域の多様な主体のネットワークの構築に向けて配置された。
- ・「生活支援コーディネーター設置推進事業」の委託を受け、初年度（H27年度）の2人配置から年々1人ずつ増員され、H30年度から6人配置となった。昨年度に引き続き地域特性に配慮しながら、北部エリアでは地域福祉課地区担当者と役割を兼務し、モデル的に地域支援を行った。
- ・現在の社会状況や令和3年度にスタートした西宮市社協第9次地域福祉推進計画に関連して、高齢分野を中心にしながらも、障がいや生活困窮など地域で生きづらさを抱えている人や世帯等にも視野や活動を広げることで、本来の地域の姿である“共生のまちづくり”を目指した。
- ・生活支援Coの役割としては地域づくり（地域資源把握・開発等）が中心であるが、個人の抱える課題へのアプローチをとおして地域課題を捉えていく視点も大切にしながら取り組みを行った。

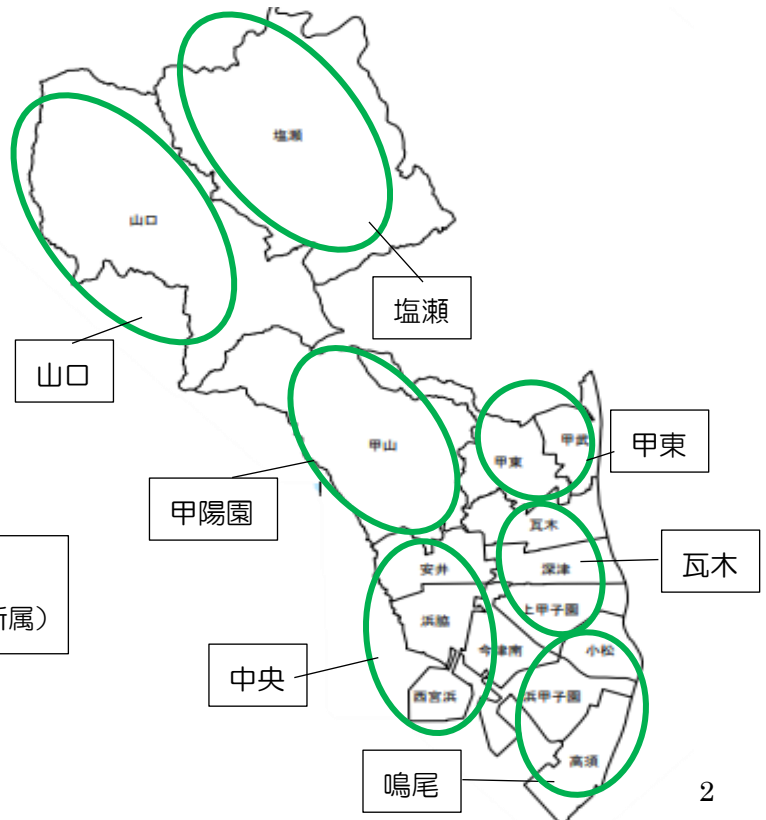
### ◎生活支援コーディネーター（以下、生活支援Co）の配置経過と地域状況等

年度	生活支援Co数	地区担当者数	人口	高齢化率	小学校	地区社協	地域包括支援C (うち在介C)	備考
平成27年度	2	6	484,796	22.4	40	34	15 (1)	
平成28年度	3	6	485,563	22.7	41	35	15 (1)	樋ノ口社協設立
平成29年度	4	6	485,344	23.3	41	35	15	西宮浜在介→ 地域包括支援Cへ
平成30年度	6	7	485,072	23.6	41	35	15	
令和4年度	6	8	482,226	24.5	41	35	15	

※人口数・高齢化率…令和5年3月31日現在、※小学校…義務教育学校含む

### [地域包括ケア連携圏域を基本とした生活支援Coの圏域担当状況]

名前	担当エリア
小藪 真彦	全市域
金森 千明	中央
永田 彩友美	瓦木
徳岡 優香	鳴尾
吉岡 琴星	甲陽園・中央(1部)
中川 俊亮	甲東&塩瀬
中川 夏希	山口



※山口地域と塩瀬地域は、「生活支援Co」と「地区担当」業務を担う(中川夏希は、地域福祉課所属)

## II. 生活支援コーディネーターの業務内容と活動件数

### 1. 業務内容

主な業務内容（市委託内容）

1. 地域資源の把握・開発
2. 継続的な支援体制の構築
3. ネットワークの構築
4. 人材養成

### 2. 活動件数

全 1,767 件 生活支援C 一人当たりの件数(実働数7人) 252 件/年

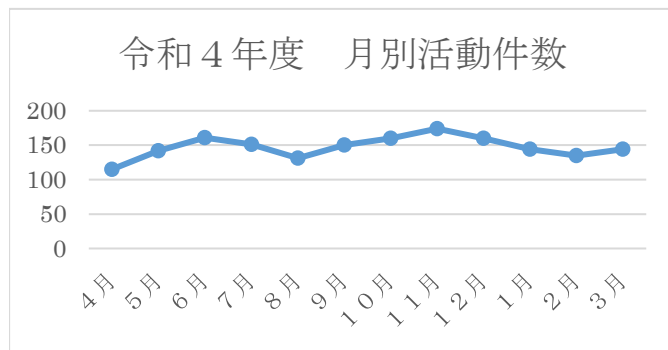
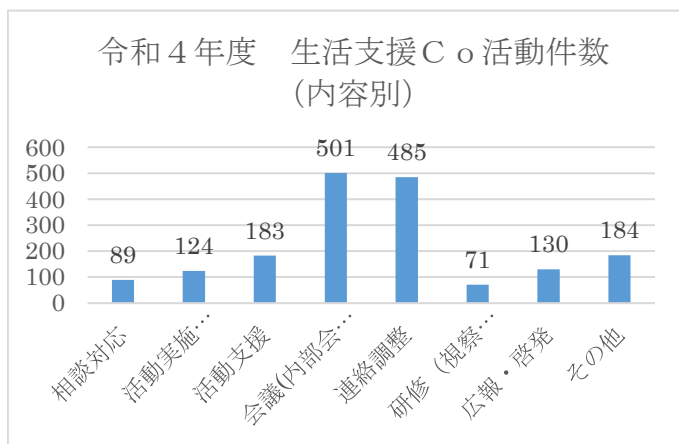
(※北部担当は、生活支援コーディネーター業務のみカウント)

#### ○活動内容

活動内容	件数	割合(%)	主な内容
相談対応	89	5%	活動立ち上げ、地域貢献、片づけ支援等
活動実施 (主催事業等)	124	7%	フードパントリー、つどい場交流会、社会福祉法人連絡協議会関連等
活動支援	183	10%	つどい場等の地域活動、交流拠点活動支援等
会議 (内部会議除く)	501	29%	拠点運営者会議、圏域チーム、地域の施設連絡会等
連絡調整	485	28%	活動者・団体・福祉施設等との活動に関する連絡調整等
研修 (視察含む)	71	4%	県社協等の研修参加、市外活動見学等
広報・啓発	130	7%	高校・大学等授業での講義、地区民児協等での広報等
その他	184	10%	地域資源把握、第9次地域福祉推進計画関連等
合計	1,767	100%	

#### ○月別件数

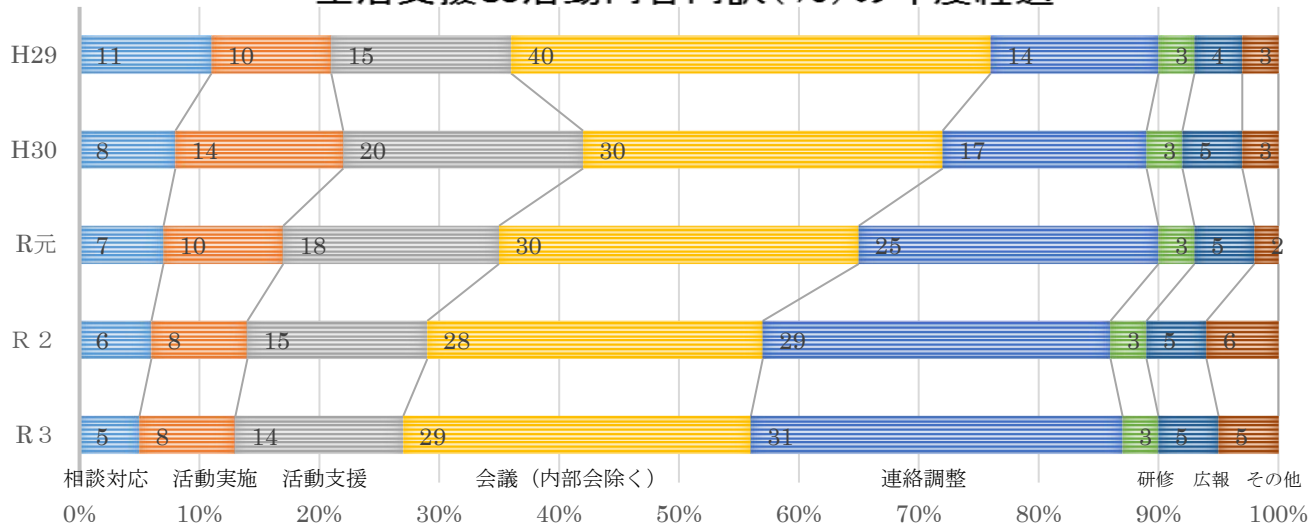
月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
件数	115	142	161	151	131	150	160	174	160	144	135	144	1,767



《参考（平成 29～令和 3 年度）》

活動内容	平成 29 年度		平成 30 年度		令和元年度		令和 2 年度		令和 3 年度	
	件数	割合 (%)	件数	割合 (%)	件数	割合 (%)	件数	割合 (%)	件数	割合 (%)
相談対応	85	11	108	8	91	7	76	6	79	5
活動実施 (主催事業等)	76	10	196	14	142	10	94	8	130	8
活動支援	111	15	286	20	253	18	181	15	225	14
会議 (内部会議除く)	299	40	424	30	415	30	336	28	474	29
連絡調整	104	14	243	17	349	25	349	29	496	31
研修 (視察含む)	25	3	39	3	41	3	39	3	49	3
広報 ・啓発	29	4	78	5	72	5	66	5	89	5
その他	22	3	48	3	20	2	80	6	81	5
合計	751	100	1,422	100	1,383	100	1,221	100	1,623	100
Co 配置数	4 人		6 人		6 人		6 人 (実働数：7 人)		6 人 (実働数：7 人)	
件数／1 人	188／人		237／人		230／人		174／人		232／人	

生活支援Co活動内容内訳(%)の年度経過



コロナ禍でも地域活動が盛んになったことに比例し、Co の動きも昨年度より活発となった。特に、拠点や圏域の動きに合わせた「会議」や民児協・青愛協等での「広報・啓発」、Co 1 年目の職員が中心となり地域(活動者)資源把握を行った「その他」の項目が増えている。月別の動きでは、昨年度と同様、春から夏にかけて徐々に動きが増え、地域活動が盛んに行われる 11 月に年間の最大件数となっている。

### Ⅲ. 生活支援コーディネーターの具体的活動

#### 1. 新たな支え合いづくり

##### ① 地域のつどい場づくりの推進(地域のつどい場推進事業)

個人の家や自治会館、公共施設等を活用して、住民同士が身近に気軽に集まれる場所としての多様な「つどい場」づくりを推進するために、相談・見学対応、事例集等を活用した啓発を行った。また、「つどい場を始めたい人」や「つどい場を開いている人」が集まる「つどい場交流会」を実施することで、つどい場を始めるきっかけづくりや各つどい場の活動充実を図った。

#### つどい場交流会

日時：令和5年2月6日(月) 13:00~15:00

場所：西宮市役所第2庁舎

内容：前半／トークライブ(事例発表)

…ともだち食堂・つどい場さくらちゃん・  
すみれサロン

後半／グループトーク

参加者：68人(活動(希望)者61人、コープ2人、関学ゼミ先生・学生5人)



今年度のつどい場交流会は、企画段階からコープこうべ・関西学院大学社会学部関嘉寛ゼミと一緒にいった。3者が「地域のつどい場」が広がることを目指す中で、それぞれの得意なことを活かしたアイデアを出し、例年よりも充実したプログラムを実施することができた。また参加の呼びかけをつどい場活動者だけではなく交流拠点等の活動者や、今後つどい場を開いてみたい方にも広く行った。その結果、昨年度の倍近い参加者が集まった。

プログラムにトークライブ(事例発表)を取り入れることで、つどい場の良さを改めてみんなで考える時間となった。後半の交流会では、参加者同士で質問し合い、お互いの活動を励まし合っている様子が見られた。一方で、交流の時間が短くなったことや、活動者とこれから活動したい方が交じり合って交流したことで話を深めることができなかつたという課題も感じた。

全体としてはつどい場の力を感じる場となり、来年度以降もこうしたつながりの機会を大切にしたい。合わせて、活動者が具体的に聞きたいことを深められる場の設定も検討したい。

#### 新規相談など

○つどい場に関する相談・・・14件

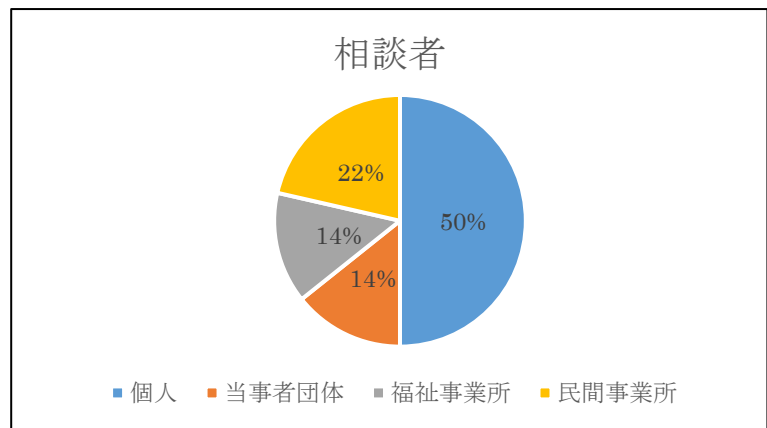
○相談内容内訳(複数選択あり)

立ち上げ相談	11件
広報地域相談	9件
助成金関係	6件

※立ち上げ相談に合わせて、広報や地域の理解等や活用できる助成金関係の相談をされることが多い。

○相談者

個人	7件
当事者団体	2件
福祉事業所	2件
民間事業所(店舗等)	3件



○つどい場の開設助成・・・2件

- ① 健康マージャンはま（西宮浜地区）・・・備品等
- ② つどい場やすらぎ（用海地区）・・・看板、チラシ印刷等

傾向として、個人の相談に加え、民間事業所(店舗等)や福祉事業所からの相談が寄せられた。相談を受ける中で、地域貢献活動の1つとして地域のために取り組まれることと、事業所の営利活動として取り組まれることが混在することがあった。多様な主体が活躍することを目指す中で、民間事業所が果たす役割は大きく、生活支援 Co としてもその力が発揮できる働きかけが求められる。一方で、特に助成金活用等金銭面が絡む内容では、個人やボランティア団体が行う活動とは別に、一定のルールを決めながら相談対応をする必要がある。

また、子ども食堂の開設に関する相談も寄せられた。活動を立ち上げたいという気持ちに寄り添いながら、実施場所や広報に関して地域の理解が得られるよう、地域とのつながり作りなどのサポートを行った。次年度から、子ども食堂相談事業の委託を市社協が受けることも踏まえ、つどい場をより広く捉え、地域での多様な居場所づくりを働きかけていく必要がある。

つどい場開設助成制度については、交流拠点立ち上げに向けて「試験的に地域でつどい場を実践してみたい」という声もあり、より柔軟に制度活用をしながら、日々地域で様々な方と出会う中で、活用を促していきたい。

②地域に参加する人を広げる取り組み・地域づくりの視点をもつ専門職の育成  
(地域福祉人材養成事業)

これまで“つどい場”をキーワードに全市的に開催してきた講座を見直し、地域住民の広い関心に合ったオンライン対応型の講座を開催した。また、つどい場づくりや地域活性に向けた地域版の地域人材を広げる取り組みとして香櫨園地区で実施した。

そして専門職向けには、地域包括支援センター職員・社協地域支援担当職員を主な対象とした地域の理解を進めるための研修会を開催した。

**(全市版)地域福祉人材養成事業**

★「みやっこまなびラボ」(全3回)の開催

① 趣旨

- ・住民の関心の高いテーマを設定し、地域に参加する人の広がりを目指す。
- ・子ども・子育てという誰もが身近に考えることのできるテーマを取り上げることで、地域活動への関心を高め、私にも何かできるかもという気づきを促す。

② 広報

- ・チラシ配布・掲示  
(関西学院大学／武庫川女子大学／神戸女学院大学、PTA 協議会、教職員、店舗、地域活動団体、西宮市自立支援協議会、宮水学園、市内公共施設等)
- ・市社協 HP・広報誌「しあわせ」掲載
- ・西宮市 SNS (公式 LINE・Twitter など)

③ 内容・申込数

回数	日程	テーマ	ゲスト	申込数
第1回	10月15日(土) 14～15時半	子育てしながら始める 「わたし」らしい地域での取り組み	・育ちの会ありのままで ・転勤族ママ&キッズ探検隊 In 西宮 ・北夙川・苦楽園地区ボランティアセンター	25人
第2回	11月19日(土) 14～15時半	一杯のコーヒーがつむぐ 人と人との物語	・ACCEPT COFFEE ROASTERS ・ゆげ焙煎所 ・まちcaféなごみ	72人
第3回	12月17日(土) 14～15時半	子ども達をほっとかへん 子ども支援の多様なカタチ	・こうろえんΣ ・ダイヤ門戸 ・金田運輸(株)	45人

※各回の終了後、放課後タイムとして15時半～16時に参加者同士の交流会を行った。



#### ④ 感想(アンケートより)

- ・子供食堂などのお手伝いなどをさせていただきたいと思っています。
- ・皆さんの前向きな姿に驚きました。子育て世代が地域で活動を始めるきっかけ、思いを知ることができた。まだ土の中に埋もれている芽をどう探すかですね。
- ・地域コミュニティの在り方について、色々と考えさせられました。
- ・たくさんの気づきと学びをいただきました。放課後タイムも魅力的でした。

昨年度に引き続き多様なテーマを取り上げる形での講座となった。子育て・子ども支援といった多くの方が当事者として関心のあるテーマを取り上げたことで、これまで以上に関心高く参加された方が多かったように感じる。またコーヒーがテーマの会は、これまでの講座の形だけでは直接つながらなかった方々の参加も多かった。そして、今回から西宮市の SNS での広報を実施していただいたこともあり、より多様な方々の参加があったと考えている。今後も市と協力して福祉を学ぶハードルを下げる試みを実施していきたい。

昨年度、参加者が活動につながりにくかった点を課題として挙げていたが、初めて実施した「放課後タイム」の中で参加者自身の学びや思いを伺うことができたことが受講後の動きにつながった。実際に生活支援 Co がその思いを受け、地域活動に繋げた方が数名おられた。次年度以降も、自分の思いを話す機会や多様な方々とつながる機会を作っていきたい。

### (地域版)地域福祉人材養成事業

#### ★香櫨園地区社会福祉協議会と協働した人材養成の取り組み

##### 「こうろえん居場所トーク」の実施

###### ○趣旨

- ・香櫨園地域における居場所づくりに向けた地域の検討課題に関する一体的なアプローチ
- ・子育て世代を中心とした関心層の掘り起こしと活動創出の機会検討
- ・企画を通して既存の活動者の居場所づくりに関する理解促進を図る

###### ○広報

- ・チラシ配布（香櫨園地域内全戸配布、香櫨園地区団体連絡協議会、地区社協役員会、青愛協、つどい場実践者、つどい場相談者、その他関心のある方に個別配布）
- ・自治会掲示板でのポスター掲示

###### ○内容

日時：令和4年4月16日（土）・9月10日（土）13時半～15時半

主催：香櫨園地区社会福祉協議会 協力：西宮市社会福祉協議会

場所：香櫨園市民センター

参加者：4月11人・9月26人

内容：4月 前回の振り返り、地域にあるもの・ないもの探し

9月 ゲストトーク つどい場このゆびとまれ 母ちゃん食堂 松本さん、  
グループトーク

○感想（アンケートより）

- ・ 普段の生活では接点のないご近所の方達とお会いできる機会を得られて、とても楽しく有意義な時間となりました
- ・ 自分の視点では考えつかない意見などがグループワークで話されていてとても楽しかったです
- ・ 親子カフェの実現をしたいと思います。松本さんの活動のように長く続けられればいいなと思いました

○当日の様子



「地域の中で何か始めたい」という方がつながり、その思いを実現するためのきっかけの場として、今年度も「こうろえん居場所トーク」を開催した。地域内では、活動に関わっている1部の方のつながりはあったが、居場所トークによって、地域に関心のある方の新たなつながりが生まれている。また香櫨園地区社協と協働して開催することで、地域内に重点的に広報をすることができた。そして居場所トーク開催後の取り組み実現に向けて、生活支援Coと地区社協が連携してサポートすることで、居場所の活動を生み出すことができている。

今後は、「こうろえん居場所トークサロン」として定期的な開催を地区社協主催で企画されており、居場所づくりの機運を高めながら、その場自体を居場所として開催をしていく予定である。

香櫨園の取り組みも参考としながら、さらに他の地域での人材養成の取り組みが広がるように生活支援Coとしての働きかけを続けていきたい。

**(専門職向け) 地域福祉人材養成事業**

**★市主催 地域診断研修（地域の理解を進めるための専門職向け研修会）実施**

主に地域包括支援センター職員と市社協地域支援担当職員が中心に地域診断を進めている中で、地域診断に関する研修会を実施した。

(研修) 内容：「地域の理解をすすめるための専門職向け研修会」

第1回 令和4年7月29日（金）13時30分～16時30分

講師：武庫川女子大学 看護学部 看護学科 教授 金谷 志子 氏

内容：講義と各地区の取り組み情報共有

第2回 令和5年2月28日（火）14時00分～16時00分

講師：武庫川女子大学 文学部 心理・社会福祉学科 教授 松端 克文 氏

内容：講義と地域診断に関する相談

※いずれも zoom を活用したオンライン開催

各地域包括支援センター圏域での地域診断の取り組みが本格化する中で、取り組みを進める上での難しさや課題(情報収集をどこまで行うか、集めた情報の分析方法、地域への働きかけ等)が見えてきた。今年度の研修は、そうした課題に対応する力を各職員がつけるとともに、地域診断の目的を確認する機会となった。また研修に合わせて、地域診断に関する相談会を企画することで、地域診断の取り組みが少しずつ軌道に乗ってきたといえる。

今後もさらに各エリアの取り組みを着実に進めていくことで、地域を理解した専門職を増やし、地域住民と専門職が協働した地域づくりに取り組んでいきたい。

### ③ 大型お片づけサポートプロジェクト・生活課題に関する個別相談

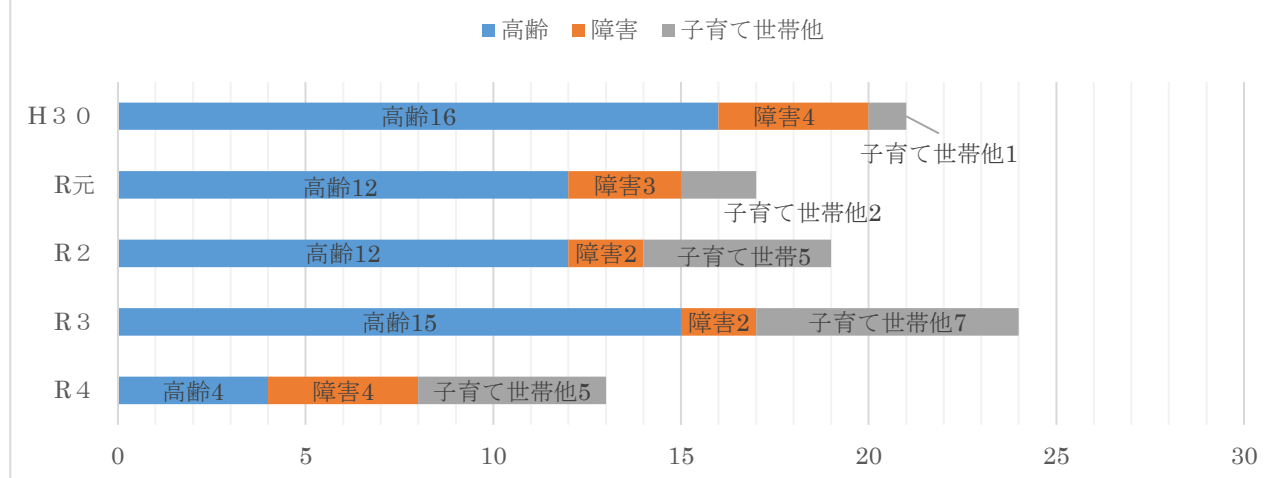
既存のサービスや1つの相談窓口では対応が難しいケースがあり、認知症や発達障害等の個人の状況に加えて、制度の狭間や社会的孤立、生活困窮等が要因となってゴミ屋敷化している世帯等への支援の仕組みとして「大型お片づけサポートプロジェクト」を平成27年度に立ち上げた。

具体的な支援活動を行いながら、本人・家族を中心にした、専門職や地域住民、行政等を交えての支援の輪づくり(ネットワーク)の構築を目指している。

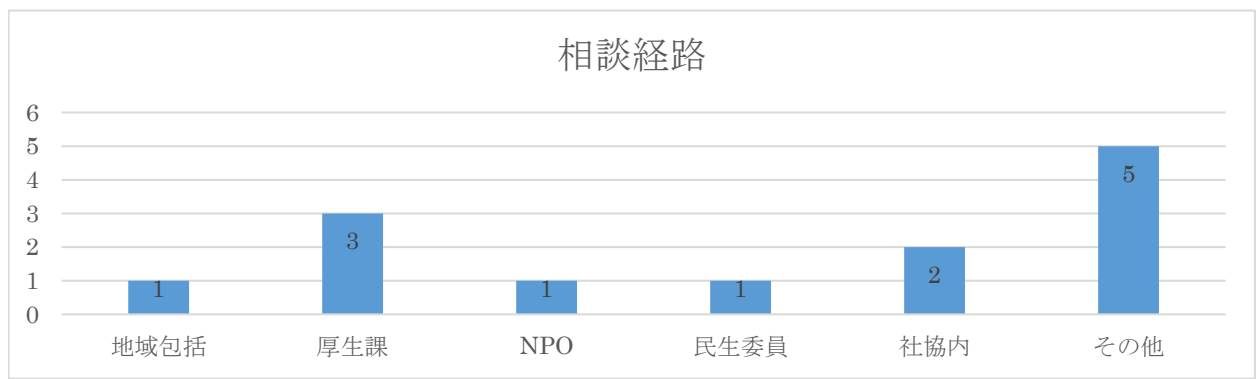
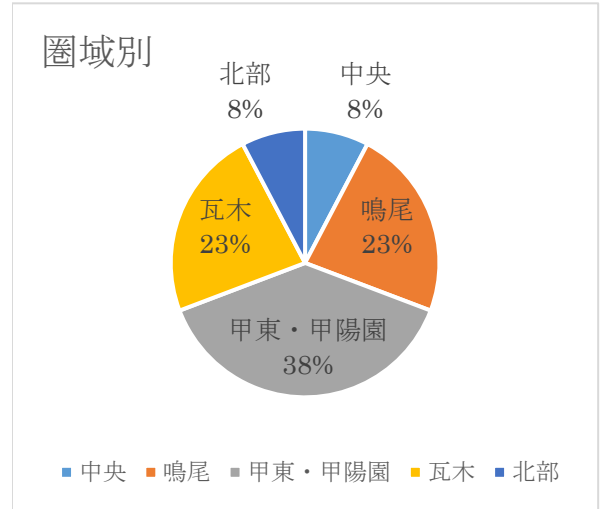
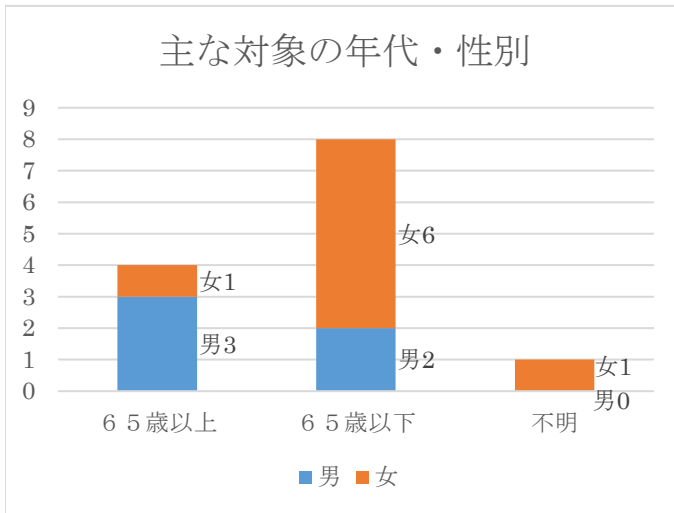
### ◎年度別新規ケース数とその圏域

年度	新規ケース数(主な分野)	圏域
H30年度	21(高16・障4・父子1)	中央4 鳴尾10 甲東・甲陽園1 瓦木4 北部2
R元年度	17(高12・障3・母子等2)	中央3 鳴尾3 甲東・甲陽園3 瓦木7 北部1
R2年度	19(高12・障2・母子等5)	中央9 鳴尾3 甲東・甲陽園2 瓦木4 北部1
R3年度	24(高15・障2・母子等7)	中央6 鳴尾8 甲東・甲陽園4 瓦木5 北部1
R4年度	13(高4・障4・母子等5)	中央1 鳴尾3 甲東・甲陽園5 瓦木3 北部1

件数の年推移とケースの主な分野の割合



◎令和4年度 新規ケース13件の状況



(傾向)

- ・今年度は総数が13件であった。昨年度よりケースが少なくなったが、関係機関が生活支援Coとしてケースに関わる役割を理解した上で、相談されるケースが増えている。特に厚生課のケースワーカー向け研修会を行ったことから、これまで以上にワーカーと連携し、本人の役割発揮や地域とのつながり作りを目的に関わることができた。
- ・高齢でも障害でもない世帯からの相談が多く、生活支援Coに寄せられる相談が、いわゆる制度の狭間となる世帯から入る傾向がある。
- ・相談のきっかけとしてお片付けから入るケースが多いが、多くのケースが地域とのつながりが少なく、地域の中で孤立している世帯がほとんどである。

(今後に向けて)

今年度もケースの関わりを通して、地域資源を活かしたアプローチを行ってきた。関わりの中で交流拠点とのつながりやフードパントリーに参加された方もあり、少しずつであるが、生活支援Coがケースに関わることで地域とのつながりが進んでいる。

今後包括的な支援体制づくりを進める中で、社協内外の連携を進めていく必要がある。引き続き生活支援Coは、**地域のつながり直しの支援と専門職及び地域住民による支援・見守り体制づくり**を目指しながら、個別ケースに関する相談を継続していきたい。

#### ④ にしのみやつながるフードパントリー

「コロナ禍で生活ニーズを抱えているが1つの団体でつながるには限界がある。」という声を受け、生活支援 Co の働きかけにより全市型のフードパントリーを実施した。今回の取り組みは食支援を通して、「これまで支援につながっていない方とのつながり作り」「地域内での支援の輪の広がり・つながり作り」を目指し、企業、地域活動団体や市社協内各部署と連携の中で取り組みを行った。

日時	場所	参加者
9月25日(日)10～15時	塩瀬公民館、総合福祉センター	194名
10月1日(土)10～15時	鳴尾老人福祉センター、甲東センター	
2月4日(土)10～13時	塩瀬公民館、山口ホール、鳴尾老人福祉センター	230名
2月5日(日)10～13時	総合福祉センター、甲東センター	

##### ○主催：にしのみやつながるフードパントリー

…コープこうべ、NPO法人なごみ、へいなんこども食堂、NPO法人alittle、  
認定NPO法人みやっこサポート、フードバンク関西、西宮市社会福祉事業団、  
(株)光洋

○広報：市政ニュース、社協HP・広報誌、相談部署からの案内、民生委員・地区社協からの案内、参画団体からの案内(LINE・Facebook等)、当日会場付近でのチラシ配布

○配布食材：お米、フードドライブ食材等

##### ○開催準備

フードドライブ食材仕分けをくらし相談支援センターつむぎ等が協働して行っている「JOBきち」メンバー、大学生、地域活動団体等と共に行った。

生活支援 Co が普段の地域活動団体とのつながりの中で拾った声を逃さず、活動へと結びつけたことが大きな成果である。また初めての食を通して全市型の取り組みを、社協だけではなく生活支援 Co が働きかけを行って実施したことで、NPO法人・企業・地域活動団体等を巻き込んだ取り組みを実施することができた。またそうしたネットワークを活用し、全市的に行ったことで、これまで各団体だけではつながれなかった方とのつながりがうまれた。

また事前の申し込みや当日配布場面でご自身の生活のしんどさを話される方がたくさん居られ、自分の思いを“話せる場”が身近にある重要性を感じた。

今後は、食支援を通して地域ごとに人々の助け合いが循環するよう、全市型から各エリアでの取り組みを目指していきたい。

## 2. 連携・協働に向けた取り組み

### ①共生型地域交流拠点関連

新規に2か所の交流拠点(南甲子園・浜甲子園)が開設され、市内交流拠点は全7か所となった。各拠点はコロナ禍で引き続き難しい運営を迫られたが、対面でのつながりを求める声も多く、各拠点は感染対策を行いながらも、さまざまな工夫を行い、拠点運営を進めた。

立ち上げに関する相談も継続して入っており、令和5年度上半期に新規1か所が新しく交流拠点を開設する予定である。

## ○新規1カ所（平木地区）立ち上げへの関わり

平木地区では、地域活動者としても活動されている方が運営するNPO法人が障がいのある方をはじめとした地域の居場所づくりを目指して交流拠点の立ち上げを検討してきた。生活支援C oは、地域合意の場面や物件探し等のサポートを行ってきたが、地理的にも物件を見つけることが難しく、数年が経過した。今回、地域内に物件が見つかり、令和5年度交流拠点を立ち上げる運びとなった。

## ○「共生型地域交流拠点代表者会」の実施

交流拠点同士がつながり、日々の取り組みをより充実させる目的で実施した。

日 時：令和4年5月30日(月)・令和4年12月14日(水)

形 式：zoomを活用したオンライン形式

内 容：コロナ禍でのそれぞれの交流拠点の開設状況・相談、交流拠点ツアー企画など

## ○「共生型地域交流拠点 拠点運営者研修」の実施

新しい拠点に関わる方を中心に、交流拠点事業の目的や拠点運営者の役割等について研修を行った。

### ① ふくふくサロン

日 時：令和4年7月4日(月)

場 所：今津南会館

内 容：市・市社協による講義

### ② つどい場はまかぜ

日 時：令和4年8月17日(水)

場 所：つどい場はまかぜ

内 容：市・市社協による講義、事例発表 ふくふくサロン島さん

### ③ はま café マリナふらっと

日 時：令和4年11月18日(金)

場 所：はま café マリナふらっと

内 容：市・市社協による講義、事例発表 つどい場はまかぜ鳩岡さん

## ○プレ拠点ツアー

拠点に関心のある方等に交流拠点を知ってもらうための見学ツアーを企画した。

日 時：令和4年12月22日(木)

参加者：2名(浜協での拠点開設を目指す方・みやっこ学びラボ参加者)

ツアー先：HAMACO:LIVING、まちカフェなごみ

## ○「共生型地域交流拠点」新規開設に向けての取り組み状況

浜協地区・・・地域外在住の方による居場所づくり

香櫨園地区・・・NPO法人による地域と協働した居場所づくりの協議

平木地区・・・物件確保に向けた動き。貸会議室を活用した居場所づくり

北夙川・苦楽園地区・・・越木岩センター立ち上げに関する動き

鳴尾西地区・・・福祉事業所による地域の居場所づくり

高須地区・・・PTA世代による子どもをはじめとした地域の居場所づくり

北六甲台地区・・・拠点づくりに関する検討委員会での協議

山口地区・・・障害事業所による古民家を活用した拠点づくりの検討

開設に至った1地区は長きにわたり交流拠点の設置を目指し、生活支援 Co も入りながら地域合意をすすめてきた。ただ、なかなか物件が見つからず開設できていなかった地区である。交流拠点立ち上げにおける物件確保については、引き続き課題があり、多様な地域資源を活用した物件確保をさらに模索する必要がある。

開設されている拠点では、運営を進める中で活動の方向性等について活動者間の意見が分かれるケースも出てきている。今後も生活支援 Co が状況を整理しながら、活動者の主体的な話し合いが進むサポートを続けていきたい。

また西宮市地域福祉計画や市社協第9次地域福祉推進計画の展開においても、拠点の展開は大切な取り組みである。効果的な配置を進め、拠点の機能がより発揮されるよう、それぞれの地域特性・課題に合わせた働きかけを続けていきたい。

## ②協力事業者による高齢者見守り事業(西宮市との協働事業)

新聞配達や宅配等の事業者および店舗や病院・薬局等の協力(事業登録)により、地域で暮らす高齢者等の異変を発見した場合に、地域包括支援センターへ連絡をすることで早期に支援につなげていくためのネットワーク構築を行った。

今年度も昨年度に引き続き、各事業者や地域包括支援センターへの発生事案の共有を継続して行ったことで、事業者からの報告件数や新規登録に関する問い合わせが増加した。また、関係者の意見交換の場として、訪問型事業者を対象とした『見守り意見交換会』を開催した。そこで出された意見を事業に反映するため、事務局で協議検討を重ね、対応マニュアルの見直しを行った。

登録事業者 : 125 事業所(新規事業所 9)

年間報告件数 : 33 件(昨年度 21 件)

### ○見守り意見交換会

日 時 : 令和4年12月12日(月)13時30分~15時

場 所 : 西宮市役所第二庁舎6階 B 601 会議室

参加者 : 11 名

内 容 : 意見交換『本事業を通じた地域での見守りについて』

報告件数が今年度も増え、独居高齢者が増える中で、本事業の役割を改めて実感した1年であった。特に夏の時期を中心に、新聞業者からの通報が多かったが、残念ながら亡くなられていた事案も多かった。今後も協力事業者や地域包括支援センター等と意見交換をしながら、より事業の効果を高めていきたい。また、本事業に合わせて地域でのゆるやかな見守りが進むように、多様な連携の中で、取り組みを進めていきたい。

## ③ 西宮市社会福祉法人連絡協議会「ほっとかへんネット西宮」運営支援

市内の社会福祉法人が連携し、法人の地域公益活動を推進するため、令和元年7月に連絡協議会「ほっとかへんネット西宮」が設立された。令和4年度には、1法人の新規加盟(社会福祉法人神港園)があり、29法人で活動を行った。今年度は初めて交流会を開催するとともに、また災害・防災に関する委員会も2ヶ月に1度協議を続けるなど、多様な活動が見られた。

## ○総会

- 日 時：令和4年5月20日(金)13時30分～14時00分  
形 式：対面形式(会場：西宮市総合福祉センター)  
参 加：12法人 (委任状提出16法人)  
内 容：事業報告、決算・監査報告、事業計画、予算の承認

## ○交流会

- 日 時：令和4年12月1日(木)15時～17時15分  
形 式：対面形式(会場：西宮市職員会館)  
参加者：8法人18名  
内 容：障害者スポーツ「ボッチャ」体験とグループ懇談

## ○研修会

- ① テーマ：「西宮市地域福祉計画・西宮市社協第9次地域福祉推進計画について」  
日 時：令和4年5月20日(金)14時～15時  
参加者：11法人18名
- ② テーマ：「ヤングケアラーの視点から考える～社会福祉法人の連携について～」  
日 時：令和5年1月25日(水)13時30分～16時15分  
参加者：43名(7法人41名、行政職員2名)

## ○委員会活動 「災害・防災に関する委員会」

- ・委員：13法人13名
- ・開催：計5回(5月・7月・9月・12月2月)
- ・内容：災害に役立つ資源マップづくり、ミニ講座、机上訓練等

## ○その他

- ・役員会：計5回(4月・5月・8月・11月・2月)
- ・「にしのみやつながるフードパントリー」への協力

交流会には若手職員だけではなく、様々な世代の参加があった。コロナ禍の影響もあり、法人同士のつながりが減っており、こうしたゆるやかなつながり作りを協議会の役割として働きかけ続ける必要がある。またヤングケアラーをテーマとした研修会を通して、様々な法人が参加する協議会として取り組める可能性が見えてきた。令和5年度にはヤングケアラーをテーマとした委員会を立ち上げ、議論を深めた上で、法人連携による取り組みを検討することとなった。

生活支援Coとしては、協議会へのサポートを通して全市のネットワークを強化するとともに、エリアごとで、地域とのつながりを働きかけ、より多様な主体の連携による地域づくりを目指したい。



### 3. その他

#### ① 広報

- 生活支援コーディネーター情報誌「Wi' th」の発行  
(奇数月発行：5回 各2,000部発行 HP掲載)

#### ② 実践発表・コーディネート

- 関西国際大学福祉系授業講義
- 関西学院大学ボランティア week2022 トークセッション
- 大阪市社会福祉研修・情報センター主催「包括的な相談支援・コミュニティソーシャルワーク実践講座」
- 実行委員会主催「市民の参加と協働を進める多様なコーディネーション実践研究集会 2022」

#### ③ 会議・研修など

- 「市社協第9次地域福祉推進計画」研修チーム(市社協内)参加
- 「権利擁護・総合相談支援体制」各会議(市社協内)参加
- サポートネット(中央・瓦木・鳴尾)への参加
- 西宮市地域自立支援協議会(みやっこ会議)への参加(ほくぶ会・こども部会)
- 各種研修、個別支援会議等の参加
- 地区担当者との連携会議、事例検討会、専門職との情報交換会 等

## IV. 今後について

### ☆ 西宮の地域福祉推進において求められる生活支援コーディネーターや地域支援の役割整理

全市型のフードパントリーの取り組みを通して、生活支援Coは、地域で把握したニーズを、多様なつながりを生み出しながら、活動を展開することが大切だと改めて実感した。生活支援Coがどのような働きかけを行うことが、地域福祉推進においてより効果的であるのか。そしてこれまで分担してきた地区担当職員を含め、西宮市における地域支援に求められていることは何か。令和5年度から始まる重層的な支援体制整備に合わせて検討を行う必要がある。

### ☆ 全市の地域状況を踏まえた共生型地域交流拠点の展開について

交流拠点事業が始まって以降、「拠点づくりをすすめたい」という方の声を受け、交流拠点の設置を進め、各地域でのつながり作りや交流活動、生活支援の活動等を展開してきた。一方で地域課題が高い地域では、拠点づくりに向けた動きを働きかけにくいといった傾向もある。その中で、そうした地域では地域づくりの立て直しが急務であり、交流拠点が果たす役割も大きいといえる。生活支援Coとしては市内全体の地域状況をつかみながら、重点的に拠点設置を働きかける地域を設定するなど、行政とともに、効果的な設置を進めていきたい。